

令和4年度第1回「高知県脱炭素社会推進協議会」 高知県知事挨拶

高知県知事濱田でございます。本来ですと、わたくしも本協議会に参加をさせていただきたいところでしたが、公務の都合により東京におりまして、東京から Web でのご挨拶のみの参加とさせていただきます。

さて昨今の豪雨災害の頻発化あるいは激甚化、台風災害の大型化、などなどに象徴されます気候変動の問題は、世界全体で取り組んでいかなければならない喫緊の課題となっております。そのためのカギとなりますのが、脱炭素社会の実現だとおっしゃってありますが、これは我々自身が、そして、また、県民の皆さん、事業者の方々、お一人お一人がしっかりと取り組んでいただく必要があるといった課題でもあると考えております。

県ではこの重要な課題に取り組んでいき、また、将来世代の子供たちに安心して暮らせる高知を残していく、そのためにもこの脱炭素化の取り組みをしっかりと進めていかなければならないと考えまして、その具体的な行動計画を本年の3月に高知県脱炭素社会推進アクションプランとして策定を致しました。このアクションプランの中では、2030年度のこの排出量の削減目標を国を上回る数値、2013年度比で47%以上というものに設定をした意欲的な内容となっております。

その中で、私自身こだわりましたのは自然豊かな高知の特色を生かした高知の強みを生かしたアクションプランにしたいということがありました。森林面積率全国一の高知県でありますから、木材の需要促進の取り組みを全国的に加速をしていくことで、本県の強みを活かしていく、そしてその森林によりますCO₂の吸収源対策ともに寄与していきたいということがございます。

また、日照量あるいは降水量が全国屈指の豊富な県でありますので太陽光ですとか水力といった再生可能エネルギーの利用をぜひ進めていきたいという点もございます。

さらには、土佐和紙以外の伝統を有します高知県の紙産業、製紙業の技術を活かしてプラスチック代替素材の開発にも意欲的に取り組んでいきたい、さらに申しますと、高知県は都市ガスではなくって、プロパンガスを燃料に使っているご家庭が圧倒的だということがあります。そうした高知県だからこそ、プロパンガス、LPガスのグリーン化を高知の木質バイオであったり、海洋バイオマスを活用してグリーン化を進めていくと、プロジェクトに落とし込んでいきたい。そんな中身をアクションプランの中に取り込んだわけでごさいます、今年度はその実行の初年度となります。

そしてこのアクションプランの大きな柱はカーボンニュートラルの実現と合わせまして「経済と環境の好循環」の実現でもあります。経済と環境、今までは往々にして二律相反的なものという観点でとらえられてきましたけれども、今日、全世界的に脱炭素化に取り組まなければならないという状況のもとでありますので、この環境の保全のための技術革新、イノベーションを起こしていくことで経済成長の原動力を示していこうと、そういう意味で経済と環境の好循環を図っていこうと、それがこの国全体としての考え方となっております。

これらの2つの実現は、当然、高知県庁の力でなしうる事はできません。例えば省エネですとか、電気自動車、燃料電池車の普及といった課題もそうありますけれども、高知県民の皆様、事業者の皆様を含めました、オール高知で取り組みを進めていくということで、はじめて実現が可能となるものと考えています。

本日はこの脱炭素アクションプランのスタートに際しまして、企業、関係団体、自治体、有識者の皆様からそれぞれの脱炭素への取り組み、あるいは知見などをご披露いただきましてアクションプランの取り組み課題についてご意見などを吸収し、それをプランの実行に活かしていきたいと考えております。

また、このアクションプランは、その成果につきまして毎年度、実行状況を調査をし、プランのバージョンアップを行いながら実効性を高めていきたいと考えております。その際には、この協議会の場におきまして幅広くご意見、また、ご要望などをお聞きして、より良い取り組みを実施していきたいと考えております。

その際には、本日の会議も含めまして、様々な場面におきまして忌憚のないご意見、またご提案をいただきますことをお願いいたしまして、開会にあたっての私のご挨拶とさせていただきます。どうかよろしくご意見申し上げます。